

令和 4 年 6 月 1 日現在

機関番号：13601

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2021

課題番号：18K00474

研究課題名（和文）バルザックにおける共作の生成論的研究

研究課題名（英文）A Generic Study on the Collaborative Works of Balzac

研究代表者

鎌田 隆行（Kamada, Takayuki）

信州大学・学術研究院人文科学系・教授

研究者番号：30436985

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、文学・芸術制作における「共作」の実践という、学術的にいまだ十全に検討が進んでいない問題に注目し、オノレ・ド・バルザック（1799-1850）が関与した共同制作の問題を検討した。この調査により、バルザックが関わった共同制作における主要な要素（歴史的コンテキスト、共同制作チームのメンバー構成、制作様態、共同作業による創造性）を分析し、『人間喜劇』の作者における創作活動の未詳の側面を新たに解明することができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、世界文学における近代文学の代表的な作家の一人であるオノレ・ド・バルザックにおける共作の実践の諸相を解明しようと試みたものである。バルザックが具体的にいかなる共作者（あるいは各種の協力者）と連携し、どのような役割分担を行い、そのことが作品の発展にどのような影響をもたらしたかについて、論点整理、資料の解析、情報の総合を図った。これにより、バルザックの作家活動の知られざる側面を明らかにし、ひいては、近代作家の創造行為についての理解の深化に寄与することができた。

研究成果の概要（英文）：By focusing on the practice of literary and artistic collaboration, an interdisciplinary subject that has not yet been fully explored in the academic sphere, our research aims to examine the issues of the collaborative works in which H. de Balzac (1799-1850) participated with other artists. This study revealed the constituent elements of his collaborative projects (historical context, organization of the collaborative team, mode of work, effects of cooperative creativity), thus clarifying some little-known aspects of the activities of the author of The Human Comedy.

研究分野：フランス文学

キーワード：バルザック フランス文学 十九世紀小説 生成論 共作 ソシアビリテ

## 1. 研究開始当初の背景

(1) 近代以降の文学概念においては、文学作品は「個人」の表現主体によって制作されるという考え方が一般的であった。しかし、過去数十年の文学研究は、近代以後においても文学的事象は個的な主体の営為にとどまらず、常に社会的共同性との関係において展開してきたことに注目し、「文学場」「ソシアビリテ」といった問題系において、文学作品の制作の広義の共同性の問題について考察を発展させてきた。ところが、このような研究動向の中で十全に考察されてこなかったのは、狭義の、具体的な共同制作の存在である。制作集団への所属や恒常的な執筆協力者を持たない作家においても共同制作の問題が存在しうることが、フランス文学研究においてこれから本格的な検討が待たれる主題である。

(2) 『人間喜劇』を代表作とする作家バルザックは、同時代のジャーナリズムなどの出版活動に広範に関わったが、その多岐にわたる共同制作の実践はまだ十分な解明がなされていない。この作家が関与した具体的な関係作品について協力者、制作時期、刊行媒体、連携の背景、共同制作の様態、そしてとりわけ協力関係による創造性の発展が包括的に問われねばならない。その解明はバルザックの文学的営為をより網羅的に理解するために必要なだけでなく、文学における共作の問題の全般的考察を深めるためにも重要となる。

(3) 研究代表者は2010年にJ. Neefs氏とともに国際シンポジウム「バルザックと他の作家の作品生成の交差」を主宰した。その際に運営方針の一つとして共作の問題を盛り込むこととし、この主旨に応じて参加者のD. Ferrer氏とJ.-J. Labia氏がスタンダールとバルザックの協働関係を論じた。Ferrer氏はその後、研究雑誌Genesisで生成論と「共作」の問題について理論的考察を発表している。かくして研究代表者自身、共作の問題に対する生成論的アプローチの始動に関わったのであり、本計画において、これを自身が専門とするバルザック研究の領域で本格的に発展させようと試みるものである。

## 2. 研究の目的

(1) 本研究はバルザックにおける共作の実践を総合的に明らかにするため、同時代の文学制作の状況における共作の位置づけ、バルザックにおける共作の様態、共作の具体的な進展プロセスと創造性の解明を目指す。

(2) 具体的には、バルザックの関与した作品共同制作の事例を分類整理し、バルザックにおける個別の共同作業の時系列的な推移はどのようなものであったか、どのようなバックボーンを持つ協力者たち(作家、アーティスト、出版関係者、家族・友人等)が関わったか、バルザックと協力者の実質的な役割分担はどのように行なわれたか、両者の契約上の権利関係(存在する場合)はどのように定められたか、創造的な制作をめぐる関係者の対話と葛藤はどのように展開し、作品にいかなる痕跡を残しており、それを考慮することで作品のいかなる側面が明らかになるか、を分析する。

## 3. 研究の方法

(1) 十九世紀フランス文学、生成批評に関連する図書や参考資料、辞書類、研究書など、幅広く文献や資料を参照し、バルザックの活動した19世紀前半のフランスの文学生産の条件の変容(出版業やジャーナリズムの飛躍的発展や読者層の拡大)および同時代の共作の全般的状況(小説、演劇、論説等)を整理し、協同的な文学作品制作という行為の同時代における位置づけを試みた。

(2) バルザックの著作の校訂版やバルザック研究関連の論文・書籍、また各種伝記的資料(作家本人や共作の関係者に関わるもの)を参照し、バルザックの関与した作品共同制作の事例を網羅的にリストアップし、その様態を次の通り分類した: 共同執筆と執筆協力、オムニバス作品集への寄稿、パラテキスト(序文、挿絵等)に関する協力関係、反=協力的介入(他者による検閲、改竄等の無断介入)。これをもとにそれぞれの分類枠に相当する事例を整理し、作品生成資料の保存状況を調査し、現存する資料の参照を進めた。

(3) 特にバルザックと旧知で『コント・ブラン』において共同刊行を行ったこともある作家シャルル・ラブーによるバルザックの未完作品に対する補筆・刊行の問題に注目し、問題となる『プチ・ブルジョワ』の生成資料(フランス学士院図書館ロヴァンジュール文庫収蔵)の網羅的な解読調査を実施した。

(4) 複数のプロジェクトにおける国際共同研究者との意見交換を進め、その延長上に、共同研究の枠組にて研究雑誌Revue Balzacの特集「エディション」の準備、また国際シンポジウムBalzac en collaborationの企画運営を行い、バルザックの共作の問題について広く討議することを図った。

## 4. 研究成果

(1) 関係資料の調査と分析によって、バルザックにおける共作の実践を多角的に考察し、その成果を公開した。各年度の主な成果は次の通りである。

2018年度はバルザックの文学制作における共作の通時的進展を1)共同執筆、2)オムニバス作

品への寄稿、3)序文等のパラテキストの寄稿、4)反＝協力的介入の問題を考慮しながら分析し、論文「バルザックにおける共作について - 問題の素描の試み - 」にまとめた(2019年度に刊行)。また、バルザックの作品制作メカニズムと当時のメディアの関係を広く考察した共著 Balzac et la langue と論文《 Scènes de table dans César Birotteau 》の刊行を行い、この問題系をめぐって研究発表《 Genèse de la langue des personnages populaires dans Le Cousin Pons de Balzac 》と「バルザックにおける媒介的生成資料について」を行った。

2019年度はバルザックの具体的な共同制作の関係資料の調査を進め、これまでの調査と検討をまとめた論文「バルザックにおける共作について - 問題の素描の試み - 」を刊行した。また、バルザックにおける思想の発展を考察した共著 Balzac penseur と前年度に口頭発表したバルザックによる新聞連載小説の問題に関わる『従兄ポンス』を論じた《 Genèse de la langue des personnages issus de la classe populaire dans Le Cousin Pons de Balzac 》を雑誌論文として刊行した。

2020年度は当初、最終年度となる予定であったが、コロナ禍で資料調査などに支障が出たため、研究期間の一年間の延長を行った。バルザックの文学制作における共作の問題の論点整理を進め、紀要論文「バルザックの未完作品とエディションについて」において作品の未完という事象と関連づけながら論じ、また、これまでの研究の進展をまとめた研究発表「バルザックにおける共作の実践」を関西バルザック研究会にて行った。他方、ソルボンヌ大学のアンドレア・デル・ルンゴ教授とともに研究誌 Revue Balzac 第4号(翌年刊行)のエディション特集の準備を行い、共同研究を進めた。

2021年度はバルザックの文学制作における共作の問題の論点整理を進め、単著 Balzac. Multiples genèses、紀要論文「バルザックの œuvres diverses の諸問題」を刊行した。他方、オンライン・シンポジウム Balzac en collaboration を2021年6月9日～10日に実施し、バルザックにおける共作の問題を14名の国際的な研究者によって広く討議する学術会議をオーガナイザーの一人として運営した。研究代表者はここで、バルザックの未完作品『プチ・ブルジョワ』をシャルル・ラブーが補筆・完成させた問題を取り上げ、調査結果を報告した。他方、前年から準備を進めていた研究誌 Revue Balzac 第4号の刊行を行った。また、分担執筆者として参加し、本研究課題と密接に関連する項目を担当した E. Bordas 他編の作家事典 Dictionnaire Balzac がクラシック・ガルニエ社から刊行された。補助事業期間全体を通じて調査したバルザックにおける共著作品の実践、諸芸術のアーティストとの協力関係、編集者との相互影響など、共同制作の問題の総括として、上記シンポジウム Balzac en collaboration の報告集のプレゼンテーション文書を作成した(『バルザック年鑑』2022年版に掲載予定)。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 4件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 鎌田隆行	4. 巻 9 (2)
2. 論文標題 バルザックのOeuvres diversesの諸問題	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 信州大学『人文科学論集』	6. 最初と最後の頁 151-161
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 鎌田隆行	4. 巻 8 (1)
2. 論文標題 バルザックの未完作品とエディションについて	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 信州大学『人文科学論集』	6. 最初と最後の頁 41-54
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 Takayuki Kamada	4. 巻 7 (1)
2. 論文標題 Genese de la langue des personnages issus de la classe populaire dans Le Cousin Pons de Balzac	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 信州大学人文科学論集	6. 最初と最後の頁 1-14
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 鎌田隆行	4. 巻 1
2. 論文標題 バルザックにおける共作について - 問題の素描の試み -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 松澤和宏教授退職記念論集	6. 最初と最後の頁 73-87
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Takayuki Kamada	4. 巻 19
2. 論文標題 Scenes de table dans Cesar Birotteau	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 L'Annee balzacienne	6. 最初と最後の頁 13-31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 3件)

1. 発表者名 Takayuki Kamada
2. 発表標題 Les interventions de Charles Rabou dans Les Petits Bourgeois
3. 学会等名 Balzac en collaboration (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 鎌田隆行
2. 発表標題 バルザックにおける共作の実践
3. 学会等名 関西バルザック研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Takayuki Kamada
2. 発表標題 Le travail de la langue dans les avant-textes de Balzac
3. 学会等名 Balzac et la langue (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Takayuki Kamada
2. 発表標題 Genese de la langue des personnages populaires dans Le Cousin Pons de Balzac
3. 学会等名 信州大学国際シンポジウム「19世紀における文学と民衆文化 フランスを中心として」(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 鎌田隆行
2. 発表標題 バルザックにおける媒介的生成資料について
3. 学会等名 関西バルザック研究会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計5件

1. 著者名 Takayuki Kamada	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Presses Universitaires de Vincennes	5. 総ページ数 416
3. 書名 Balzac. Multiples geneses	

1. 著者名 Andrea Del Lungo et Takayuki Kamada	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Classiques Garnier	5. 総ページ数 301
3. 書名 The Balzac Review / Revue Balzac, n. 4	

1. 著者名 Eric Bordas, Pierre Glaudes, Nicole Mozet, Jeremie Alliet, Claire Barel-Moisan, Anne-Marie Baron, Lauren Bentolila-Fanon, Vincent Bierce, Veronica Bonanni, Veronique Bui, Christele Couleau, Andrea Del Lungo, Aude Deruelle, Marie-Benedicte Diethelm, Lucien Derainne, Jacques-David Ebguy, Takayuki Kamada et al.	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Classiques Garnier	5. 総ページ数 1558
3. 書名 Dictionnaire Balzac	

1. 著者名 Francesco Spandri, Takayuki Kamada et al.	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Classiques Garnier	5. 総ページ数 427
3. 書名 Balzac penseur	

1. 著者名 Eric Bordas, Takayuki Kamada et al.	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Kime	5. 総ページ数 324
3. 書名 Balzac et la langue	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------

フランス	Universite Paris-Est-Creteil	Universite de Paris		
------	------------------------------	---------------------	--	--